

時間貧困からの脱却にむけた タイムユースリテラシー教育

— ESCAP 地域の人間開発新戦略 —

中山節子 著

千葉大学准教授

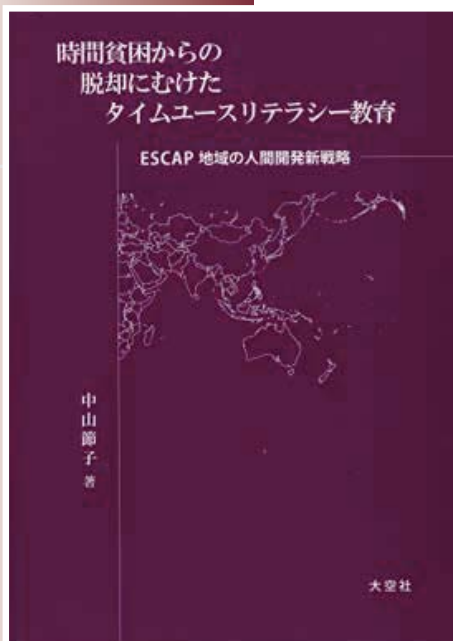
国や地域ごとに異なる人間の生活文化・生活様式の特徴を鮮明化させる“**生活時間研究**”——進む欧米の調査・研究から取り残されていた ESCAP 地域を対象に、**生活行動分類**の比較・分析に新視点・方法を提起，さらに**時間認識**の問題を**人間開発**の関わりで捉え，生活時間を**自立教育**へ向けた教材として活かす授業実践を試みる——

- ◇各国調査項目の全細目を初めて対訳提示，カラー色分けを含む理解しやすい多数の比較図表を駆使し，**生活行動分析**を**社会・労働・経済**から広く**文化・ジェンダー・教育研究**等に有効な方法として提起する意欲的業績——

* **ESCAP**: Economic and Social Commission for Asia and the Pacific
(国連アジア太平洋経済社会委員会)

- 〈正加盟国 53〉 アフガニスタン アルメニア オーストラリア
アゼルバイジャン バングラデシュ ブータン ブルネイ
カンボディア 中国 北朝鮮 フィジー インド インドネシア
イラン 日本 キリバス キルギス ラオス マレーシア
モルディヴ マーシャル諸島 ミクロネシア連邦 モンゴル
ミャンマー ナウル ネパール パキスタン パラオ
パプアニューギニア フィリピン ニューージーランド 韓国
西サモア シンガポール ソロモン諸島 スリランカ タイ
タジキスタン トンガ トルコ トルクメニスタン トゥヴァル
ヴァヌアツ ヴィエトナム カザフスタン ウズベキスタン
ロシア連邦 グルジア 東ティモール
- 〈域外加盟国 4〉 フランス オランダ 英国 米国
- 〈準加盟メンバー 9〉 クック諸島 グアム 香港 ポリネシア
マカオ ニウエ ニューカレドニア 米領サモア 北マリアナ諸島

(2013年9月1日現在)



学術図書出版

大空社

時間貧困からの脱却にむけた
タイムユースリテラシー教育

ESCAP 地域の人間開発新戦略

A4判 (297 × 210^{5/8})
約230頁・並製・カバー

中山節子 著 (2014年2月刊)

ISBN978-4-283-00650-8 C3077
定価 (本体 5,619 円+税)

〈主要目次〉

○第I部 ESCAP 地域の生活時間調査

- 第1章 ESCAP 地域の生活時間調査及び生活時間研究の動向
- 第2章 ESCAP 地域の政府レベルの生活時間調査と行動分類の特徴
 - 第1節 予備的考察としての国連による3種の生活時間行動分類—「国連国際統一生活時間分類」「国連国際行動分類構造」
 - 第2節 筆者による国際比較のための「新4大生活時間分類」の提示
 - 第3節 ESCAP 地域の生活時間行動分類の特徴
 - 東アジア4カ国—日本、韓国、中国、モンゴル/東南アジア3カ国—カンボジア、タイ、インドネシア/南アジア—インド/西アジア—オマーン/オセアニア2カ国—オーストラリア、ニュージーランド/各国の特徴的行動分類
 - 第4節 ESCAP 地域の生活時間行動分類の課題
- 第3章 ESCAP 地域の生活時間の実際—国際比較・独自調査・ジェンダー分析—
 - 第1節 比較方法及び比較データの調整
 - 第2節 「新4大生活時間分類」による時間量の比較
 - 第3節 生活時間平等度 (ERTU) による比較
 - 第4節 アジア2カ国の生活時間独自調査 (インドネシア、タイ)
 - 第5節 インド生活時間マイクロデータを用いたアジア6カ国の生活時間国際比較

○第II部 人間開発・自立教育のためのタイムユースリテラシー

- 第4章 人間開発のための生活時間研究とタイムユースリテラシー
 - 第1節 生活時間調査への期待と国連ミレニアム宣言と開発目標国連女性会議における生活時間調査の位置づけ/国連ミレニアム開発目標 (MDGs) での生活時間の位置づけ
 - 第2節 タイムユースリテラシーの必要性
 1. 「時間貧困 (Time Poverty, Time-Poor)」とその概念
 2. リテラシーについての国際的変遷と教育学的見解
 3. 時間貧困の撲滅に向けて—タイムユースリテラシーの育成
 4. 先進国におけるタイムユースリテラシー
 - 第3節 人間開発・自立教育のツールとしての生活時間の教材
- 第5章 男女平等教育・自立教育としての「生活時間」の授業実践
 - 第1節 日本の学校教育における「生活時間」、「タイムユースリテラシー」の扱い (学習指導要領、家庭科教科書)
 - 第2節 自立教育へつながる男女平等教育を目的とした小中高での「生活時間」の授業実践の先行研究
 - 第3節 小学校家庭科における自立教育を目指した生活時間の授業実践
- 付節 米国の中学校・高等学校家庭科教科書にみる「生活時間」の取り扱い
- 終章 ESCAP 地域の生活時間調査の特徴とタイムユースリテラシーの重要性

引用文献・索引

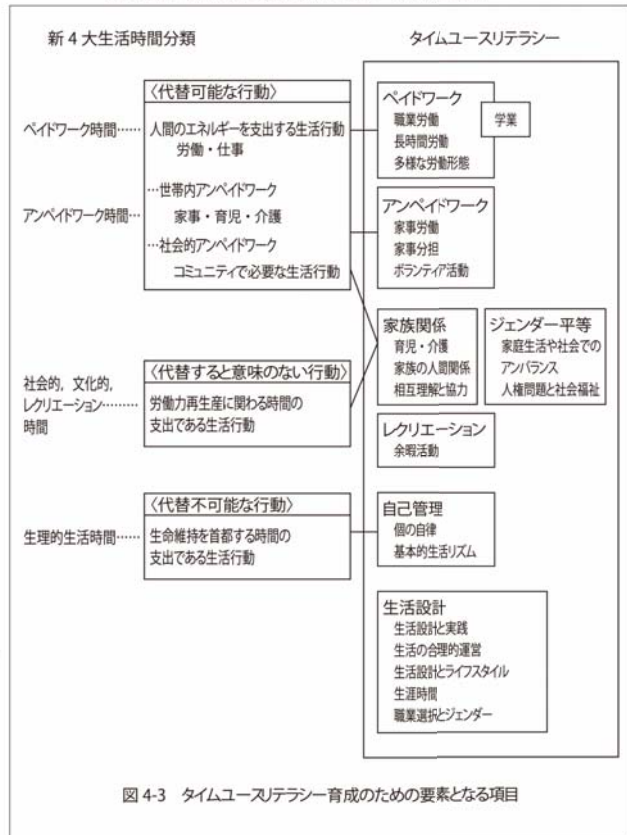
(著者) 中山節子 (なかやま せつこ)

1973年生まれ。東京学芸大学卒、2002年米国オレゴン州立大学大学院修士課程 (MAIS: 女性学・人類学専攻) 修了、2003年東京学芸大学大学院教育学研究科修了、2005年昭和女子大学大学院博士課程生活機構研究科修了 (博士: 学術)、2009年より千葉大学教育学部准教授。編著書に、『安心して生きる・働く・学ぶ—高校家庭科からの発信』(大竹美登利監修、中山節子・藤田昌子編著、開隆堂 2012年) / 「第13章 時間貧困からの脱却と新世代の『生きる力』—タイムユース・リテラシーを育む教育」『福祉社会における生活・労働・教育』(堀内かおる編、明石書店 2009年) など。

「タイムユースリテラシー」(Time use literacy) で使用する「リテラシー」は、「理解し、活用できる能力」を教育学的見地からさらに深め、「批判的に読み解く能力」と特に家庭科教育で重視される「創造していく能力」を加えた広義の「リテラシー」の意味を含むものとする。自他の時間使用の実態に関する認識、自覚、時間使用、配分能力から、自分の置かれた状況を批判的に読み解き、新たな状況を創造していく能力を筆者は、タイムユースリテラシーと名づけてそのための教材開発を最終目的とする。

「時間貧困」(Time Poverty, Time-Poor) とは「労働などで個人が極端に時間的負担を強いられている状況で、労働により消費したエネルギーを回復したり、生理的など生命や健康に関わる必要かつ最低限の時間の確保ができず、かつ金銭などにより代替してその時間を生み出すことが不可能な状態」と整理されよう。

第II部：自立のためのタイムユースリテラシー



〔図6-1 本研究の全体図〕より (部分・縮小)

主要関連
研究領域

家政学 生活科学 生活経営学 家庭科教育 教育学 初等教育
生活時間 労働問題 生活福祉 国際比較 統計 ジェンダー
女性学 男女平等 比較文化 アジア・太平洋地域